

哲学・思想

責任という原理 [新装版]

科学技術文明のための倫理学の試み

ハンス・ヨナス著 加藤尚武監訳

ISBN 978-4-88713-999-2 C3012 [2010] A 5・472 頁・4800 円

文明の暴走を批判し未来に対する人間の責任を告知したヨナスの哲学的遺言。今こそ本書熟読の時だ。

〔主要目次〕 1. 人間の行為の本質は変わった 2. 基礎問題と方法問題 3. 目的と「存在の中での目的的位置」について 4. 善（良さ）、当為、存在一責任の理論 5. 今日の責任一危機にさらされる未来と進歩思想 6. ユートピア批判と責任の倫理

ハンス・ヨナス「回想記」

ハンス・ヨナス著 盛永・木下・馬淵・山本訳

ISBN 978-4-88713-998-5 C3010 [2010] A 5・560 頁・4800 円

三大陸をめぐり、学生・兵士・研究者と変転した生涯。現代の極点を生き抜いた代表的思想家の全体像。

〔主要目次〕 I 体験と出会い (1. 戦争時代のメンヘングラートバハハでの青少年時代 2. 栄光の夢 3. 哲学とシオニズムのあいだ 4. マールブルク 他6章) II 哲学と歴史 (11. ハイデガーとの訣別 12. 生命の価値と尊敬 他2章) 付録：クリスチャン・ヴィーゼによる後書き 年表・文献目録・索引

主観性の復権

心身問題から『責任という原理』へ

ハンス・ヨナス著 宇佐美公生他訳

ISBN 4-88713-363-4 C3010 [2000] A 5・144 頁・2000 円

心的現象における環元的唯物主義を論駁、精神と行為の自由を確認。『責任という原理』姉妹書。

〔主要目次〕 はじめに 心身問題における争点 I. 心的な原因の介入に対する物理学的な禁止のテーゼ (両立不可能論) II. 心的なものの無力さに関するテーゼ (随伴現象論) III. 随伴現象テーゼもしくは理性の自縄自縛は不要である IV. 補遺 付 因果的に付加価値のある境界状況と歴史

哲学・世紀末における回顧と展望

ハンス・ヨナス著 尾形敬次訳

ISBN 4-88713-245-X C3010 [1996] A 5・64 頁・826 円

第二次大戦を分水嶺として20世紀の哲学を俯瞰。死の前年の講演を基にしたまさにヨナスの遺言。

〔主要目次〕 序章 フッサール ハイデッカー 第二次大戦後の哲学 次世紀に向けた哲学の展望 [訳者解説] H・ヨナスの経歴・思想 関係年表 訳者あとがき

哲学の立ち位置

哲学への誘い―新しい形を求めて I

松永澄夫・鈴木泉編

ISBN 978-4-7989-0019-3 C1010 [2010] A 5・352 頁・3200 円

叢書第Ⅰ巻の本書は、哲学と関連諸概念―常識、科学等との差異を弁別し、その立ち位置を明確に描く。

〔主要目次〕 総序 (松永澄夫) 序論 地図の地図―骨組み概念の系譜学 (松永澄夫) 1. 常識と哲学 (木田直人) 2. 哲学と諸科学 (山口裕之) 3. 哲学とイデオロギー (村松正隆) 4. 倫理に向かう哲学 (越門勝彦) 5. 哲学とその外部 (佐藤香織) 6. 哲学史という背後 (鈴木泉) 7. 思想の伝統の中の哲学 (朝倉友海)

哲学の振る舞い

哲学への誘い―新しい形を求めて II

松永澄夫・村瀬鋼編

ISBN 978-4-7989-0020-9 C1010 [2010] A 5・288 頁・3200 円

自己と世界に対して展開する言語化された思考の航跡―哲学という振る舞いの基本の形を素描する。

〔主要目次〕 総序 (松永澄夫) 序論 生活と思索と言葉 (松永澄夫) 1. 問いつめる (中真生) 2. 哲学的討議 (高橋若木) 3. 哲学の文体 (村瀬鋼) 4. 哲学の身振り (原一樹) 5. 自己探究と他者 (村上晶郎) 6. 哲学する自己 (檜垣立哉)

社会の中の哲学

哲学への誘い―新しい形を求めてⅢ

松永澄夫・高橋克也編

ISBN 978-4-7989-0021-6 C1010 [2010] A 5・344頁・3200円

社会とは諸価値が錯綜する意味世界だ―そこを生きる人間の諸価値の測量士として在り方を追求する。

〔主要目次〕総序(松永澄夫) 序論 価値・意味・秩序(松永澄夫)
1. イデオロギーと哲学の場所(手塚博) 2. 集合的実践と哲学(伊多波宗周) 3. 生き延びるための知と技術の構築(小林優子)
4. 知識基盤社会の構築における哲学の役割(栗立雄輝) 5. 宗教の発想・哲学の思考(高橋克也) 6. 社会学の知と哲学(伊東俊彦)
7. 大学一般教育における「哲学」という科目(古田知章)

世界経験の枠組み

哲学への誘い―新しい形を求めてⅣ

松永澄夫・伊佐敷隆弘編

ISBN 978-4-7989-0022-3 C1010 [2010] A 5・328頁・3200円

時空的世界で自己意識をもって生きる人間の営みを、その活動舞台の基本的な枠組みとともに描出する。

〔主要目次〕総序(松永澄夫) 序論 現実性の強度と秩序(松永澄夫) 1. 時間(伊佐敷隆弘) 2. 空間(谷口薫) 3. 自己知と世界経験(吉田聡) 4. 生命と他者(朝倉友海) 5. 自然と人為(渡辺由文) 6. 論理と存在(倉田剛)

自己

哲学への誘い―新しい形を求めてⅤ

松永澄夫・浅田淳一編

ISBN 978-4-7989-0023-0 C1010 [2010] A 5・312頁・3200円

哲学が森羅万象に目を向けながらも常に立ち返る恒常的な特異点―「自己という問題系」を巡る考察。

〔主要目次〕総序(松永澄夫) 序論 在ることと為すこと(松永澄夫) 1. 意識(川崎惣一) 2. 欲望(浅田淳一) 3. 自由・意志・感情(大西克智) 4. 呼びかけられる私、呼びかける私(古荘真敬) 5. 世界の中で驚くこと(下野正俊) 6. 人の傍らで(下村英視)

哲学史を読むⅠ

松永澄夫著

ISBN 978-4-88713-835-3 C3010 [2008] A 5・392頁・3800円

学説羅列の哲学史を超え、18・19世紀仏哲学を中心に、西洋哲学の背景をなす思考様式を焦点化。

〔主要目次〕Ⅰ 背景のイメージをつかむ 1. 人間の科学に向かって 2. 18世紀フランス哲学・思想 3. 19世紀フランス哲学・思想 Ⅱ トピックで流れを読む 4. 意識と我 5. 事実の概念が隠し持つもの ほか 付論1. 生命思想 2. 近代科学の分析の方法と生命科学 Ⅲ 著作家の思考をほぐす(1) 付論3 哲学史の教科書

哲学史を読むⅡ

松永澄夫著

ISBN 978-4-88713-836-0 C3010 [2008] A 5・392頁・3800円

日本で紹介不十分な著作家の思考が抱える中核的観念を今日の眼で解きほぐす哲学研究の新地平。

〔主要目次〕Ⅲ 著作家の思考をほぐす(2) 13. コンディヤックの記号論 14. 記号における運動の発見 15. シャルル・ボネの「立像」のフィクション 付論4. ビシャ 16. 二つの生命と二つの生命特性 17. 生命と意識 18. デステュット・ド・トランの観念学の理念 ほか 付論5. ミシェル・アンの「生の哲学」

言葉の力

松永澄夫著

音の経験・言葉の力(第1部)

ISBN 4-88713-617-X C1010 [2005] A 5・272頁・2500円

おとぎ話から哲学論議まで、言葉の不思議を斬る。日常を哲学に繋ぐしなやかな知的冒険。

〔主要目次〕1. 人と人の間柄をつくるもの-おとぎ話にみる言葉の導く力(呪文 言葉から始まる 行動と自己の獲得 過去の効力 道徳と感情) 2. 現実とフィクションとの交錯-『紅はこべ』にみる言葉の描く力(語が内蔵する意味 語と文 文:言葉の現実態 文が描く世界)

音の経験

言葉はどのようにして可能となるのか

松永澄夫著

音の経験・言葉の力(第2部)

ISBN 4-88713-718-4 C1010 [2006] A 5・400頁・2800円

音を聞くこと、それを言葉として理解することとは何か―日常経験から無限に広がる哲学的思考。

〔主要目次〕1. 音を聞く経験の中核 2. 音を出す 3. 意味と重要性 4. 知覚世界の秩序 5. 行動の相互理解とメッセージ 6. 標がつくる秩序 7. 写真・絵・地図 そして鏡 8. 標が立ち上げる世界 9. 音のさまざま 10. 言語音の特性

ミシェル・フーコー

批判的実証主義と主体性の哲学

手塚博著

ISBN 978-4-7989-0090-2 C3010 [2011] A 5・216 頁・3200 円

時期により規模を大きく変えるその思考の裡に潜む、強固な一貫性を追求したスリリングな研究。

〔主要目次〕はじめに 凡例 序論 1. 人間学の問題圏 2. 規律権力・人間諸科学・主体性 3. 生物権力と主体性 参考文献 あとがき 事項索引 人名索引

省みることの哲学

ジャン・ナベール研究

越門勝彦著

ISBN 978-4-88713-783-7 C3010 [2007] A 5・224 頁・3200 円

彼が終生追求した生活を変容させる力としての哲学―わが国未開拓の領域に挑んだ、貴重な労作。

〔主要目次〕第1部 自由の内的経験(自由意志の感情 自由の内的経験のプロセス) 第2部 反省による自己の創造(反省とはいかなる営みか 自由への信の形成-反省の効果(1) 行為の理由の変化-反省の効果(2) 道徳的人格の陶冶-反省の効果(3)) 第3部 感情と倫理(制度としての義務 道徳性に関わる感情 他者との交流) 結論

〈現われ〉とその秩序

メーヌ・ド・ビラン研究

村松正隆著

ISBN 4-88713-748-6 C3010 [2007] A 5・272 頁・3800 円

形而上の飛躍を排し通常の世界へ降りていく哲学―優れて今日的なその営為の精細な読み解き。

〔主要目次〕第1部 ビラニスム以前(諸学の統一という理念 習慣論における「現われ」の分節 トラシとの「戦い」) 第2部 ビラニスムの基本的諸概念とその連関(諸事実の分類と根源的事実 努力の二つの様態と固有身体経験 反省的諸観念) 第3部 ビラニスムにおける認識の諸体系(触覚的体系 ほか)

心身の合一

ベルクソン哲学からキリスト教へ

中村弓子著

ISBN 978-4-88713-884-1 C3031 [2009] 四六・384 頁・3200 円

哲学から宗教への無限の接近の果てになお残る断絶。宗教と行動一致をめざす心身合一論の展開。

〔主要目次〕第1部 ベルクソン論 1. 心身の合一 第一篇 ベルクソンにおける心身合一論 第二篇 哲学者のモラル 第三篇 キリスト教における心身合一論 2. ベルクソンと16世紀キリスト教神秘主義 第2部 モーリヤック論 1. ふたつの愛―キリスト教と文学 2. 『瘦のからみあい』―危機と恩寵 付論: 体験としての翻訳

言葉の歓び・哀しみ

松永澄夫編

ISBN 978-4-7989-0046-9 C1010 [2011] 四六・328 頁・2400 円

歓びや哀しみはじめ、感情という人間の生の根本減少と、言葉の力の精緻な関わりを追求・考察。

〔主要目次〕言葉と感情(松永澄夫) 砲丸のように言葉を投げること(木田直人) 「話しことば」考(山根基世) 自閉症と言葉の発達(滝川一廣) 危機言語・アイヌ語復興への道―現状と課題(小笠原信之) 方言における歓びと哀しみ(小野綾子) 他者との関わりと言葉(平岡紘) 言葉と共感的交流(早川 正祐)

言葉の働く場所

松永澄夫編

ISBN 978-4-88713-873-5 C3000 [2008] 四六・264 頁・2300 円

言葉の出会いとともに言葉の力とその働きを、経験の裏打ちのもと語り明かす、多彩な執筆陣。

〔主要目次〕意味世界は価値世界である(松永澄夫) 言葉への旅路(後藤正治) 絆を支えに自己はつくられる(村上晶郎) サウンド・バイト・メディアは考える力を奪う(小田玲子) 「言葉は命」を実践したい(橋本五郎) 神が私を知っている(大住雄一) 思考が言葉で変様するとき(朝倉友海)

言葉は社会を動かすか

松永澄夫編

ISBN 978-4-88713-953-4 C3000 [2009] 四六・304 頁・2300 円

社会的場における言葉の働きと力の具体的提示とともに、言葉・個人・社会間の関係を多角的に考察。

〔主要目次〕時代を表現する言葉と社会の変化(松永澄夫) 言葉の運動としての社会運動(伊多波宗周) 言葉の力への信仰と絶望(高橋若木) テレビの言葉(安藤優子) 法律における言葉(橋幸信) 民主政治と日本語(中野晃一) 言葉が人を動かすのか(渡辺誠)

環境 文化と政策

松永澄夫編

ISBN 978-4-88713-827-8 C3000 [2008] 四六・336頁・2300円

環境問題が人間の活動に起因するのなら人為の両極—文化と政治抜きにその解決はあり得ない。

〔主要目次〕序章 眼差しを見せる 1.世界遺産条約と文化的景観 2.「自然環境」問題における「文化」概念の意味 3.現場から環境倫理を切り開く 4.風力発電事業をめぐる対立と展望 5.地域環境をめぐる科学と社会 6.国際捕鯨委員会(IWC)と知床世界遺産における科学委員会の役割 7.動物園へ行く 他3章

環境 設計の思想

松永澄夫編

ISBN 4-88713-742-4 C3000 [2007] 四六・288頁・2300円

どんな主体がいかに設計しどう合意をかちえるのか—問題対応に必須のこの課題を多角的に論究。

〔主要目次〕1.環境に対する要求と設計の主体 2.共同性の創設と環境問題 3.北方四島をどう保全するか—世界自然遺産の拡張という選択肢 4.自然をめぐる合意の設計 5.生態系管理の設計 6.「自然の設計」の思想—生物多様性を保全するしくみを「設計」するために 7.「脱温暖化」と「脱近代化」—まちやむらのこころと技術をつくり直す

環境 安全という価値は

松永澄夫編

ISBN 4-88713-639-0 C3000 [2005] 四六・272頁・2000円

東京大学多分野交流演習主要報告。多彩な執筆陣が安全・リスクを切り口に、環境問題を考える。

〔主要目次〕1.安全を求める人々の営み 2.ヒトはどのような場所に住んできたか 3.在地社会における資源をめぐる安全管理 4.化学汚染のない地球を次世代に手渡すために 5.環境リスクとどうつきあうか 6.監視社会化の何が問題か 7.リスクの政治 8.リスクを分かち合える社会は可能か

食を料理する

哲学的考察

松永澄夫著

ISBN 4-88713-534-3 C3010 [2003] 四六・272頁・2000円

「食えること」を考えるのはこんなに美味しいことなのだ。具体と感性の哲学的料理をどうぞ。

〔主要目次〕食べる時間・生きる時間 食と呼吸 食物の安定的入手—三つの方向 味覚の特性 味の濃淡 味を分類するとは 基本味という考え 美味しさと二つの欲求 食のメッセージ 衣食住と言うときの食の位置 食をめぐる諸問題 浪費される食 食事の時間

いま蘇るブリア=サヴァランの美味学

川端晶子著

ISBN 978-4-88713-945-9 C1098 [2009] 四六・456頁・3800円

名著を記憶の深みから引き上げ、新たな視点からその全体像と独自性を浮彫りにした解説・解説書。

〔主要目次〕第一部 ブリア=サヴァランのアフォリズム 第二部 美味学 1.美味学の誕生 2.感覚論 3.味覚論 4.食欲 5.グルマンディズとグルマン 6.美食家テスターと食卓の快楽 7.消化と休息 8.睡眠と夢 9.肥満と肥満の予防と治療 10.痩せと断食と死 第三部 哲学的料理史 第四部 没後100年記念—D・パイアン

空間の履歴

桑子敏雄哲学エッセイ集

桑子敏雄著

ISBN 978-4-88713-916-9 C3010 [2009] 四六・192頁・2000円

身近な自然から古今東西の街や書まで、著者の歩みと共に蘇る歴史に彩られた多彩な空間の履歴。

〔主要目次〕序 I 風景のなかへ II 物を友として III 変わるもの・和するもの IV時は流れゆく あとがき

森と建築の空間史

南方熊楠と近代日本

千田智子著

ISBN 4-88713-472-X C3010 [2002] A5・288頁・4381円

神社整理に始まる国土空間の整序—これに抗した南方の活動の裡に新たな環境思想の発現を読む。

〔主要目次〕第1部 明治・大正期の宗教政策と国土再編(「神道」の近代性 「神道」=「非宗教」へ 神社のシンボル化と神社合祀) 第2部 近代に向かう空間と知(近代の神社創建 「保存」の政治 ほか) 第3部 空間の近代化と南方熊楠の思想(「事の学」—ヨーロッパ的科学思想と密教的世界観の統合 環境との纏り ほか)

環境と国土の価値構造

桑子敏雄編

ISBN 4-88713-426-6 C3010 [2002] A 5・224頁・3500円

経済優先から感性、風土、住民等多様な価値の復権へ、現代環境問題の思想的基盤構築をめざす。

【主要目次】1. 方法としての価値構造 2. 国土再編における「廃絶」と「保存」の論理 3. 自然保護の思想と実践 4. 「国土の均衡ある発展」の理念 5. 都市政策と緑化幻想 6. 風景の多元的価値解釈の枠組み 7. 環境行政と風土 8. 環境情報と感性的価値判断 9. ミクロなレベルで見た環境 10. 環境問題と新しい倫理の視点

空間と身体

新しい哲学への出発

桑子敏雄著

ISBN 4-88713-280-8 C3010 [1998] 四六・256頁・2500円

精神の身体・環境からの超越―人類の危機はそこから始まった。西欧思考の錯誤を糾す新たな知の営為。

【主要目次】Ⅰ部「わたし」とは何か：1. 魚の楽しみを知ること 2. 霧に沈むもの、他1章 Ⅱ部 わたしと世界と：4. 鳥のいない風景 5. 魚、水を離れず、他1章 Ⅲ部「わたし」はどこに：7. 雲は龍に従い、風は虎に従う 8. 虎の尾を踏んでもよいか 9. 雑草を抜いてはならない

ハイデガーと地球

環境哲学論考

L. マックフォーター 佐賀啓男・長谷敏夫訳

ISBN 978-4-88713-853-7 C3010 [2010] 四六・208頁・2300円

ハイデガーが内包するエコロジカルな思索に触発されて展開する6つの脱西欧的環境論考が放つ光芒。

【主要目次】1. 罪という管理テクノロジー 2. ハイデガーとエコロジー 3. 建設を思考し詩作する路 4. 地球思考と変革 5. 地球を歌う 6. 出合いの場所

ロバのカバラ

ジョルダノ・ブルーノにおける文学と哲学

N. オルディネ著・加藤守通訳

ISBN 4-88713-439-8 C3010 [2002] A 5・288頁・3600円

否定・肯定両面を含むロバの多義的イメージの解析に見る、ブルーノの豊饒な現代性の鮮烈な提示。

【主要目次】ブルーノとロバ―先送りされた問い 神話、寓話、物語「ロバ」の素材 ロバとメルクリウス―「対立物の一致」の暗号 ロバ性の両義的空間 人間とロバ―「獣性」と「神性」の狭間で 肯定的ロバ性―労苦、謙遜、忍耐 否定的ロバ性―閑暇、傲慢、一面性 運命の演説 真理の迷宮の中で ほか

思想史のなかのエルンスト・マッハ

科学と哲学のあいだ

今井道夫著

ISBN 4-88713-418-5 C3010 [2001] A 5・256頁・3800円

現代最先端の思想と科学に大きな影響を及ぼしたその独自の思考を、今日の眼で掘り起こす充実の論考。

【主要目次】1部 エルンスト・マッハの認識論：1. エルンスト・マッハ論序説 2. エルンスト・マッハの認識論、他1章 2部 エルンスト・マッハの「哲学」：4. マッハ哲学の一源泉 5. 思想史のなかのエルンスト・マッハ 6. エルンスト・マッハと回転運動の問題 3部 マッハ「哲学」の後と先（2章） 最終章 マッハ論の現在

メルロ＝ポンティとレヴィナス

他者への覚醒

屋良朝彦著

ISBN 4-88713-537-8 C3010 [2003] A 5・240頁・3800円

二知性による独創的他者論の交響を通じ、ヴァーチャル的世界を切り裂く自己出会いの途を追求。

【主要目次】第1部 メルロ＝ポンティにおける身体と他者（知覚・言語・存在） 前期・中期における自己と他者―対話の観点から 第2部 レヴィナスの他者論（メルロ＝ポンティからレヴィナスへ 自己から他者へ ほか） 第3部 メルロ＝ポンティにおける他者の可能性―レヴィナスからメルロ＝ポンティへ（可逆性と他者性 ほか）

墮天使の倫理

スピノザとサド

佐藤拓司著

ISBN 4-88713-478-9 C3078 [2002] 四六・320頁・2800円

極限の合理主義は極限の背徳と通底する―スピノザとサドを繋ぐ知性の独走の明と暗を徹底追求。

【主要目次】天使の墮落―トマス・アキナスと知性の自律 第1部 合理主義の体系とスピノザ（言語・経験・表象知―スピノザ知論の根底にあるもの ほか） 第2部 スピノザの倫理学とサドの背徳主義（スピノザと反宗教思想 スピノザとサド―利己主義と背徳主義の間でほか） 利己主義は背徳か―合理的な倫理の基礎づけ

地球時代を生きる感性

EU知識人による日本への示唆

A. チェザーナ著 沼田裕之訳者代表

ISBN 4-88713-707-3 C3010 [2007] 四六・240頁・2400円

サンヴァラ系密教の諸相

行者・聖地・身体・時間・死生

杉木恒彦著 日本宗教学会賞受賞 (2008年度)

ISBN 4-88713-773-8 C3036 [2007] A5・416頁・5800円

アリストテレスにおける神と理性

角田幸彦著 明治大学人文科学研究所叢書

ISBN 4-88713-190-9 C3010 [1994] 菊判・432頁・8350円

必要悪としての民主主義

政治における悪を思索する

伊藤勝彦著

ISBN 4-88713-310-3 C3010 [1998] 四六・224頁・1800円

荒野にサフランの花ひらく

純・愛の思想史

伊藤勝彦著

ISBN 4-88713-207-7 C3010 [1994] 四六・224頁・2369円

情念の哲学

伊藤勝彦・坂井昭宏編

ISBN 4-88713-139-9 C3010 [1992] A5・304頁・3200円

グローバル化のなか西欧型思考・哲学の優越は崩れた。間文化性を鍵に歩む新たな思想への道。

【主要目次】1.「地球規模化」時代の哲学 2.間文化的哲学-文化的偏見からの思考の自己解放のために 3.新しい世界秩序におけるヨーロッパ 4.知識社会における陶冶・教養 (Bildung) の目的 5.我々は新しい人間の概念を必要としているか 6.ブルクハルトの目で見える歴史と文化

9世紀以降仏教界に展開した巨大な宗教伝統一知られざるこの後期密教に関する初の包括的研究。

【主要目次】1.初期中世密教界 2.多文化的な聖地群の諸伝承 3.受容としての身体 4.外的な時間の輪 5.四輪三脈の多面的身体論 6.クリシュナ流の四次第 7.死兆と死のヨーガ

アリストテレス哲学の基底をなす、神と理性の問題を、徹底した考察と文献批判により論究した労作。

【主要目次】1.形而上学の概念 2.神学の性格 3.理性論を巡って-能動的理性の権能 4.理性論と動物学的視図 5.幸福論-観照と実践 6.(補章) プラトン哲学の体系的把握とテュービンゲン学派

民主主義謳歌の果てにはエゴと無責任の荒野-日本の現状を憂え、渾身で説く責任・献身・愛国の勧め。

【主要目次】1.戦後民主主義というウソ 2.世界に冠たる平和憲法というウソ 3.少年法の問題 4.自由・平等・博愛 5.非情な現代 6.必要悪としての民主主義 7.見せかけの父性的権威 8.“透明人間”の深層にあるもの 9.“透明人間”の深層にあるもの 10.女の時代の危険と希望

かつて愛の思想は不毛の荒野から生まれた。現代の都市砂漠から、新たな思想は果たして誕生するか。

【主要目次】1 愛の思想は不毛の荒地に生まれる 2 大いなるバーンを殺したのはだれか 3 不安の闇夜に再生の光がきらめく 4 砂漠の中から抽象芸術が生まれる 5 日本の砂漠に愛の思想は生まれるか 附論 砂漠の思想とヒューマニズム

多角的に情念論を追求し近代哲学における理性偏重の歪みを剔出。新たな人間学の構築をめざす。

【主要目次】I. 理性と情念：1. 根元的情感性について 2. 情動的意識と時間性 3. 死と情態性 4. 嫉妬と義憤 II. 情念と身体：5. 静かな情念 6. 創造と性 7. 身体の経験 8. 見ることと語ること III. 情念と社会：8. 自然・情念・社会 9. 感情と人格 10. 他人の心 11. 平等感情と正義

ジョルダノー・ブルーノ著作集

火刑台上の死から400年有余、いま世界的に新たな注目を集めているブルーノ思想の全体像をわが国に初めて伝える画期的翻訳。欧州で編集・刊行が進められている決定的全集を底本に進行中。

カンデライオ

その豊饒闊達な笑いの精神は、後年の自由と寛容の思想と高らかに交響する。唯一の傑作喜劇。

〔主要目次〕ペガサスの泉に泥酔する方たちへ 献辞 とこしえに栄誉あるモルガーナ・B夫人へ 喜劇の議論と構成
反・前口上 前口上に代わる前口上 守衛 第一幕 第二幕
第三幕 第四幕 第五幕 訳注 解説

加藤守通訳

ジョルダノー・ブルーノ著作集1

ISBN 4-88713-500-9 C3310 [2003] A 5・224 頁・3200 円

原因・原理・一者について

1584年初版のブルーノの主著の一つ。対話形式で神、宇宙、世界を論じた「形而上学的対話」編。

〔主要目次〕序としての書簡 詩：ノラの人ジョルダノーから宇宙の君主たちへ、他4編 第一対話 第二対話 第三対話 第四対話 第五対話 訳註 参考文献 解説

加藤守通訳

ジョルダノー・ブルーノ著作集3

ISBN 4-88713-290-5 C3310 [1998] A 5・224 頁・3200 円

英雄的狂気

狂気に類する熱情と探求を通じ神への合一へ。他に類をみぬブルーノ特有の哲学パトスの描写。

〔主要目次〕高貴なるフィリップ・シドニー氏に捧げられた、英雄的狂気についての、ノラの人"ブルーノ"の議論 第一部の五つの対話の議論 第二部の五つの対話の議論 第五対話の議論と寓意 もっとも有徳で優美なるご婦人方に対するノラの人への弁明

加藤守通訳

ジョルダノー・ブルーノ著作集7

ISBN 4-88713-691-9 C3010 [2006] A 5・320 頁・3600 円

【続刊】

②『聖灰日の晩餐』

④『無限・宇宙・諸世界について』

⑤『傲れる野獣の追放』（近刊）

⑥『天馬のカバラ』

⑧形而上学と宇宙論—『三十の像の灯明』『フランクフルト三部作』

⑨記憶術論—『アイデアの影』『キルケの歌』『印の印』

⑩魔術論—『魔術について』『絆について』

別巻『ジョルダノー・ブルーノとルネサンス思想』（仮題）

別巻『ジョルダノー・ブルーノ研究』（仮題）

感性哲学

思考は、環境、身体、日常等、感性の働く場と切り離されて独立に存在しようとするのは、大きな誤認である。従来の理性偏重の哲学を超えた新哲学展開の場として、年1回10号まで刊行。さらに新たな発展をめざす。

感性哲学1

〔特集〕なぜ、今、感性哲学なのか？

日本感性工学会感性哲学部会編集委員会編

ISBN 4-88713-405-3 C3010 [2001]

A 5・128頁・1600円

感性哲学6

〔特集〕語り出す身体

日本感性工学会感性哲学部会編

ISBN 4-88713-774-1 C3010 [2006]

A 5・144頁・1800円

感性哲学2

〔特集〕「住む」の哲学

日本感性工学会感性哲学部会編集委員会編

ISBN 4-88713-457-6 C3010 [2002]

A 5・192頁・2000円

感性哲学7

〔特集〕環境を壊してみる

日本感性工学会感性哲学部会編

ISBN 4-88713-775-2 C3010 [2007]

A 5・160頁・2000円

感性哲学3

〔特集〕知と感性

日本感性工学会感性哲学部会編集委員会編

ISBN 4-88713-523-8 C3010 [2003]

A 5・144頁・1800円

感性哲学8

〔特集〕「育む」感性

日本感性工学会感性哲学部会編

ISBN 978-4-88713-862-9 C3010 [2008]

A 5・144頁・2000円

感性哲学4

〔特集〕つなぐ感性

日本感性工学会感性哲学部会編集委員会編

ISBN 4-88713-574-2 C3010 [2004]

A 5・112頁・1600円

感性哲学9

〔特集〕感性のゆらぎ

日本感性工学会感性哲学部会編

ISBN 978-4-88713-931-2 C3010 [2009]

A 5・144頁・2000円

感性哲学5

〔特集〕コミュニケーション・デザインの哲学

日本感性工学会感性哲学部会編

ISBN 4-88713-634-X C3010 [2005]

A 5・176頁・2000円

感性哲学10

〔特集〕感性のまなざし

日本感性工学会感性哲学部会編

ISBN 978-4-7989-0014-8 C3010 [2010]

A 5・208頁・2000円

倫理学・生命倫理

生命の神聖性説批判

H. クーゼ著 飯田亘之ほか訳

ISBN 4-88713-681-1 C3012 [2006] A 5・352頁・4600円

生命の質への徹底した考察を通じ、現代の常套的終末期医療を根底から批判。生命倫理の新天地。

【主要目次】1. 「生命の神聖性」教説と倫理的整合性 2. 死を引き起こすことと生命をながらえさせないこと 3. 生命を意図的に終わらせることと二重結果の原理 4. 通常でない生命-通常でない手段でなくて 5. 結論-「生命の神聖性」から「生命の質」へ

精神科医 島崎敏樹

人間の学の誕生

井原裕著

ISBN 4-88713-717-6 C3717 [2006] 四六・288頁・2600円

脳組織ではなく心の病に対する精神医療の開拓者―藤村の血をひく「知の巨人」の生涯と思想。

【主要目次】1. 島崎敏樹という精神（忘れられた精神医学者 心で見る精神科医、その生涯 ほか） 2. 人間の研究（人間とは何か 心で見るモラリスト ほか） 3. 精神科医のノート（生きたとは何か 幼年期の「生きる」 ほか） 4. 精神病理学と島崎敏樹、そして私自身（精神病理学の夜明け 我が人生への関与）

医療倫理と合意形成

治療・ケアの現場での意思決定

吉武久美子著

ISBN 978-4-88713-785-1 C3047 [2007] A 5・240頁・2800円

今日不可欠なのは患者、家族、医師、看護師間等の合意形成だ。豊富な経験に基づく労作。

【主要目次】1. 医療現場での意思決定 2. 臨床的意思決定と証拠にもとづく医療 3. 「インフォームド・コンセント」の導入と倫理原則の転換 4. 医療におけるコミュニケーション 5. チーム医療の諸問題 6. 社会的合意形成の特徴 7. 医療行為における「合意の原則」 8. 合意形成の実践的手続き 9. 合意形成の方法を取り入れた医療倫理教育の可能性

動物実験の生命倫理

個体倫理から分子倫理へ

大上泰弘著

ISBN 4-88713-590-4 C3012 [2005] A 5・352頁・4000円

分子レベルに至った生命科学に対し従来の個体単位の倫理は無効だ―斬新なゲノムの倫理の展開。

【主要目次】1. 動物をめぐる問題 2. 論点の科学・技術的背景 3. 論点の思想的背景とその限界 4. 問題の分析方法 5. 分子倫理 6. 動物実験の問題緩和システムの提案

バイオエシックス入門（第三版）

生命倫理入門

今井道夫・香川知晶編

ISBN 4-88713-396-0 C3012 [2001] A 5・288頁・2381円

科学・医療の発展が突きつけた新たな倫理的難問にどう応えるか―遺伝子解読等新稿を含む最新版。

【主要目次】1 バイオエシックスとは何か（バイオエシックスの誕生と展開 インフォームド・コンセント） 2 バイオエシックスの諸問題（中絶と出生前診断 生殖技術 脳死と臓器移植 エイズ ほか） 3 バイオエシックスの課題（パーソン論と差別の問題 医療と正義 バイオエシックスの枠組と方法―その歩みと今後の課題）

バイオエシックスの展望

生命倫理の展望

坂井昭宏・松岡悦子編著

ISBN 4-88713-561-0 C3012 [2004] A 5・304頁・3200円

哲学・医学・看護・社会学等多様な知見を総合し、今日の最先端問題群を具体的に照射・究明。

【主要目次】はじめに―バイオエシックス懇話会 I 先端医療とバイオエシックス（実験医学からみた生命倫理の展望 他3章） II 医療制度と患者の権利（女性の身体をめぐるポリティクス 癌告知患者の医療の問題 他3章） III 原則の反省（健康をめぐる反哲学的考察 他3章）

生命の淵

バイオエシックスの歴史・哲学・課題

大林雅之著

ISBN 4-88713-631-5 C3012 [2005] A 5・144頁・2000円

技術の後追いを脱し技術を内在的に批判しうる新たな価値観の確立を求め生命倫理学再生をめざす。

【主要目次】第1部 バイオエシックスの歴史(バイオエシックスの「歴史的回顧」 医療倫理の歴史と概念ほか) 第2部 バイオエシックスの哲学(生命の技術化 バイオエシックスが「医学の哲学」を変えた バイオエシックスにおける相補性ほか) 第3部 バイオエシックスの課題(「生命倫理学」にとって「犯罪」への「負担」は可能か ほか)

キリスト教からみた生命と死の医療倫理

浜口吉隆著

ISBN 4-88713-410-X C3037 [2001] A 5・304頁・2381円

キリスト教は今日の最先端医療行為をどう考えるか?的確な文献解読を通じ現代生命倫理を考察。

【主要目次】生命倫理の成立とその背景 医療と倫理と宗教 キリスト教の人間観 人格と良心と責任の倫理 生命をめぐる倫理原則 健康と病気と生きる意味 患者と医者との関係 病人の看護と癒しとホスピス 医療行為と人体実験 患者の自己決定権と同意原則 臓器移植とその倫理性 人間の死とその判定 延命治療と尊厳死と安楽死

今問い直す脳死と臓器移植(第2版)

澤田愛子著

ISBN 4-88713-346-4 C3012 [1999] A 5・224頁・2000円

この問題に関する全ての論点を点検・整理した読者が自ら考えるための格好の手引書、新第2版。

【主要目次】1.人間はいつ死ぬのか-脳死と死の再定義めぐって 2.臓器移植とその問題 3.わが国における臓器移植法施行後の動き-脳死臓器移植実施と新たに提起された問題 4.将来への展望-まともに代えて

テクノシステム時代の人間の責任と良心

現代応用倫理学入門

H. レンク著 山本達・盛永審一郎訳

ISBN 4-88713-518-1 C3012 [2003] A 5・288頁・3500円

古典倫理学の個の道徳を踏まえつつ、現代に必須の新たな集団倫理の枠組を包括的に追求・提示。

【主要目次】1 序論-倫理学の構想について見直しをもつこと 2 良心の呼び声-良心概念の概観 3 自己責任性としての人間性-具体的な人間性の哲学について 4 自己責任と社会的責任 5 ボパール-無責任性と責任の喪失:ケーススタディ 6 責任のさまざまなタイプ(類型)と次元 7 科学者の責任へ向けて

芸術

イタリア・ルネサンス事典

J. R. ヘイル編 中森義宗監訳

ISBN 4-88713-490-8 C [2003] A 5・640頁・7800円

美術・歴史・政治・宗教・哲学等、大小920もの項目と貴重な図版237を掲載した、かつてない歴史事典。

〔主要目次〕 監訳者まえがき 凡例 分野別項目一覧 全920項目 付録：地図・歴代元首表・グロッサリー・邦語文献目録 欧文項目一覧 事項索引・地名索引・人名索引

ロジャー・フライの批評理論

知性と感受性の間で

要真理子著

ISBN 4-88713-589-0 C3070 [2005] A 5・224頁・4200円

フライの多岐にわたる社会活動と広範な理念を貫通する思想の本質を、精細に追究・考察した労作。

〔主要目次〕 1. フライの思想の変遷 2. フォーム概念の成立 3. ヴィジョン概念の変遷 4. フォームの質・造形的な局面と心理的な局面 5. 感受性の論理 6. 社会的側面・同時代における位置づけ

バロックの魅力

小穴晶子編

ISBN 4-88713-741-7 C3070 [2007] A 5・192頁・2600円

変容しつつ繰り返し現れる不均衡の美—絵画、演劇、都市、音楽等、多彩に味わい尽くすバロックの魅力。

〔主要目次〕 1 バロック・ジャンルを越えて（術語・バロック 公認されたバロック ほか） 2 好きは嫌いで、嫌いは好き（時代区分 言葉と音楽 ほか） 3 劇場の政治学（1589年春、フィレンツェは祝賀に溢れていた ほか） 4 バロックの常数としての祝祭と開かれた空間（ルネサンスからバロックへ ほか） 5 鏡で巡るバロック美術の旅

新版ジャクソン・ポロック

藤枝晃雄著

ISBN 4-88713-745-5 C3070 [2007] A 5・256頁・2600円

その全創作過程に渡り、鋭利な眼で画面の質と芸術性を見定めた美術批評の白眉、改訂新版刊行。

〔主要目次〕 心の再構成 実験的作品をめぐる 主題の変奏 一九四三年 転換期の絵画 アクション・ペインティング批判 創造過程 オールオーヴァのボード絵画

芸術理論の現在

モダニズムから

藤枝晃雄・谷川渥編著 芸術学叢書

ISBN 4-88713-322-7 C3370 [1999] A 5・384頁・3800円

輸入理論の一知半解を排し、より明晰な地平をめざし近現代の知の多様を耕すモダニズムからの出発。

〔主要目次〕 I. ジャンルの地平：芸術を求めて／折れる壁をめぐる／廃棄される彫刻、他2章 II. 歴史の地平：表象から共感へ／人文字の総合としての芸術哲学、他3章 III. テクストの地平：フォーマリズム批評の理論／モダニズム美術の視覚性／現代の文学理論、他2章

現代芸術の不満

藤枝晃雄著

ISBN 4-88713-230-1 C3071 [1996] A 5・256頁・3495円

現代芸術界の前衛インフレを鋭利に斬り裂き、真の芸術の要件を精細に論究した激論集。

〔主要目次〕 現代音楽について デュシャンのために・デュシャンに反して 「面白主義」の芸術について パフォーマンス、脱パフォーマンス 類似と装飾 疫病と芸術 美術の現況 「芸術」を失った世界の現代美術 昨今の美術の状況をめぐって 日和見主義者が南下する [ほか]

レオノー・フィニ

境界を侵犯する新しい種

尾形希和子著

ISBN 4-88713-657-9 C3071 [2006] A 5・256 頁・2800 円

あらゆる制度や境界を侵犯し、小説、舞台芸術等様々な分野で活躍した女流画家の日本初のモノグラフィー。

【主要目次】1 レオノー・フィニの生涯(幼少期 ミラノ時代 パリへ 戦時中、ローマ 戦後から1970年代まで 1980年代以降 結び) 2 レオノー・フィニの作品世界(シュルレアリスム運動における女性芸術家たち フィニの絵画世界) 文献一覧

美学と現代美術の距離

アメリカにおけるその乖離と接近をめぐって

金悠美著

ISBN 4-88713-542-4 C3070 [2004] A 5・224 頁・3800 円

現代美術は美学を拒否しているかー創造と哲学の乖離を追求しつつその超克をめざす営為を探る。

【主要目次】1. 分析美学の問題 2. 美学の制度としてのアメリカ美学会 3. 日本におけるアメリカ美学の受容 4. 「美学と芸術家」をめぐる議論 5. デューイの美学とアメリカ美術 6. ダントーの芸術哲学と美術批評

サンタクロースの島

地中海岸ビザンティン遺跡発掘記

浅野和生著

ISBN 4-88713-706-0 C0070 [2006] A 5・304 頁・2381 円

サンタクロースの故郷はトルコだった！灼熱の太陽の下、日本人調査隊エーゲ海遺跡発掘の15年。

【主要目次】リキアとはどんなところか 謎解きのはじまり 聖ニコラオス伝説 トラブル頻発！ ニコラオスのふるさと 史料をひもとくと 次々に聖堂を発見 山頂の聖堂を掘ろう！ モザイク発見 地中海岸の聖堂めぐり 新たな展開へ マケドニアの金細工師 ハイテク考古学の試み 最古のニコラオス像？ エピローグ

アロン・コープランドのアメリカ

G. レヴィン他著 奥田恵二訳

ISBN 4-88713-513-0 C3010 [2003] A 5・256 頁・3200 円

変転する社会思潮の中を歩む一音楽家の軌跡から見えてくる現代アメリカの文化、社会動向の大観。

【主要目次】第1部 アロン・コープランドのアメリカ(形成期 外国での修行・パリのアヴァンギャルド ジャズの影響 ニューヨークに地歩を固める ほか) コープランドを振る 第2部 アロン・コープランドの音楽(模索の年月 パリ ニューヨークの現代人 政治的理想と実用主義 ほか)

アメリカ映画における子どものイメージ

社会文化的分析

C. M. ジャクソン著 牛渡淳訳

ISBN 4-88713-470-3 C3036 [2002] 四六・336 頁・2600 円

アメリカ人の現実認識と的確に対応して変化する子ども像ー映画による初の本格的子ども観研究。

【主要目次】1. アメリカ映画における子どものイメージ 2. 子ども、無垢、アメリカの伝統 3. 第二次大戦以前の映画における子どものイメージ 4. 第二次大戦後の映画における子どものイメージ 5. 結論

図像の世界

時・空を超えて

中森義宗著

ISBN 4-88713-369-3 C3071 [2000] A 5・176 頁・2500 円

時代と風土を超えて飛翔する様々な典型的図像の美術史上の系譜を探り隠された意味の核心に迫る。

【主要目次】I. 美術史の時・空：1. 美術の古典をめぐって 2. 西洋美術における「時」の表現 3. 2000年ということ 4. 「建築画」なるもの II. 図像の系譜：1. 「獅子」の図像 2. 「ワシ」の図像 3. 天使たちの変容と転化、他1章 III. 右と左：《座談会》美術における右と左

ネットワーク美学の誕生

「下からの総合」の世界に向けて

川野洋著

ISBN 978-4-88713-938-1 C3070 [2009] A 5・296 頁・3600 円

一元的自我支配の美から多元的脳内ネットワーク創発の美へー新たなプリミティブ芸術理論の登場。

【主要目次】1. 近代芸術の生成と解体 2. 新しい感性論を構想する 3. 新しい情報科学がもたらすアイデア 4. 記号表現のプラグマティクス 5. 新しい世界を創る逆メタファ 6. オブジェー世界を創る素材 7. 主題場 8. 下からの総合ーディレクターと設計図のない創造 9. 創発する新しい世界 10. 追補：感性の生まれ出る仕組み

絵画論を超えて

尾崎信一郎著

芸術学叢書

ISBN 4-88713-327-8 C3371 [1999] A 5・304頁・4600円

「批判のための批判」を超え、ポロックらの作品の緻密な分析からモダニズム/フォーマリズムの再定義を図る。

【主要目次】Ⅰ.1. 現代美術と自己参照 Ⅱ. 戦後アメリカ美術とフォーマリズム批評、他1章 Ⅲ. 革新としてのアクション・ペインティング Ⅳ. 解体と継承 Ⅴ. 時間としての絵画、他2章 Ⅵ. 1. 形態から生成へ Ⅶ. 絵画以後の絵画 Ⅷ. 絵画論と記号論 Ⅷ. モダニズム絵画と時間、他3章

都市と文化財

アテネと大阪 大阪市立大学国際学術シンポジウム

関隆志編

ISBN 4-88713-275-1 C3070 [1998] A 5・400頁・3800円

東西の英知を結集し、現代都市環境下における文化財保全・活用の理論・技術・哲学を多角的に展開。

【主要目次】序論(4章) Ⅰ部 災害と文化財(大阪の地盤と文化財、他2章) Ⅱ部 情報と文化財(歴史建造物の復元手法の一、他8章) Ⅲ部 市民と文化財(アクロポリス文化財による教育、他2章) Ⅳ部 科学技術と文化財(大気汚染の文化財への影響、他4章)

美術史の辞典

P. デューロ他著 中森義宗・清水忠共訳

ISBN 4-88713-302-2 C3070 [1998] A 5・432頁・3600円

約880の項目がいわばエッセイ風に味つけされた正に「読む辞典」の典型。現代美術にも目配り十分。

【主要目次】まえがき(美術史とは何か 美術史の歴史 今世紀の美術史 今日的美術史学 美術史学の将来) 美術史学の文献 注記 五十音順項目・訳者による補遺 訳者によるあとがき 原項目一覧

幻影としての空間

図学からみた東西の絵画

小山清男著

ISBN 4-88713-256-5 C3070 [1996] A 5・304頁・3700円

東西絵画の精密な図学的分析を通じ、'単なる「描くこと」を芸術へ昇華させる絵画空間の謎に迫る。

【主要目次】Ⅰ. 線遠近法成立まで：ジョットの絵画空間、他2章 Ⅱ. 日本絵画の空間：浄土図 北斎の富嶽図、他2章 Ⅲ. ルネサンス一線遠近法の空間：レオナルドの晩餐図、他3章 Ⅳ. 遠近法：歪像画考 浮遊する視点、他2章

芸術は何を越えていくのか？

沼野充義編著

未来を拓く人文・社会科学シリーズ15

ISBN 978-4-88713-892-6 C0370 [2009] 四六・216頁・1800円

境界探索による自己確認は同時に「越境」と自己変革の促しだ。この独自と多様を巡る激烈な相互作用。

【主要目次】Ⅰ 伝統を求めて Ⅱ 私とは何か？ Ⅲ 境界を超えて [シンポジウム] 未来への郷愁—超え行くもの／とどまるもの

芸術の生まれる場

木下直之編著

未来を拓く人文・社会科学シリーズ16

ISBN 978-4-88713-893-3 C0370 [2009] 四六・256頁・2000円

作品と観客出会いの場・ミュージアム等に見る芸術生成と芸術と社会との新たな関係性。

【主要目次】Ⅰ ミュージアムというボトス Ⅱ 文化ホール劇場、コミュニティ・カフェのある社会文化ホールについてみよう Ⅲ ミュージアムに行こう [鼎談] 日本の文化政策とミュージアムの未来

文学・芸術は何のためにあるのか？

吉岡洋・岡田暁生編著

未来を拓く人文・社会科学シリーズ17

ISBN 978-4-88713-894-0 C0370 [2009] 四六・256頁・2000円

社会と人性に芸術はどう作用しているか？効用を尋ねた果てに浮上する、無形・独自の使命と有用性。

【主要目次】Ⅰ 芸術と社会映画は共同体とどのような関係にあるのか？ Ⅱ 芸術と心性「癒し」てくれない芸術はなぜ存在するの？ 大原 宣久芸術とは癒しなのか？ Ⅲ 芸術の創造文学・芸術は「エコ」にどのように貢献できるのか？ Ⅳ 芸術と価値芸術の価値を決めるのは誰？[鼎談] 文学芸術は何のためにあるのか？

世界美術双書

(監修) 中森義宗・永井信一・小林忠・青柳正規

気鋭の執筆者が最も得意とする分野に全力投球する書き下ろしシリーズ。一人一冊を基本に、西欧・東洋・日本を横断。最新の研究成果を取り入れ、廉価かつ良質な啓蒙書をめざしている。既刊13冊。

バルビゾン派

井出洋一郎著

世界美術双書001

ISBN 4-88713-172-0 C3371 [1993] A 5・144頁・2000円

親しみ易い平明な記述、読み易い大きな活字。豊富な図版と相まって従来の渴をいやす絶好の入門書。

〔主要目次〕1.はじめに—バルビゾン芸術と私たち 2.バルビゾン村とフォンテーヌブローの森 3.フランス風景画の発展 4.バルビゾン派の展開と遺産 5.主要画家解説 6.日本人とバルビゾン派 7.関係画家略歴 観用語解説、参考文献、所蔵美術館ガイド、年表、関連地図ほか

キリスト教シンボル図典

中森義宗著

世界美術双書002 (別巻)

ISBN 4-88713-175-5 C3371 [1993] A 5・224頁・2300円

約400項目を典拠・図版とともに解説。美術のみならず西欧の文芸・思想理解のためにも必携の書。

〔主要目次〕I. 天地 (46項目) II. 人間 (16項目) III. 動物 (81項目) IV. 植物 (79項目) V. 品物 (84項目) VI. 記号 (37項目) VII. 聖衣 (26項目) VIII. 祭典 (31項目) 〔解説〕キリスト教美術におけるシンボル、ほか

パルテノンとギリシア陶器

関隆志著

世界美術双書003

ISBN 4-88713-203-4 C3371 [1996] A 5・176頁・2300円

パルテノン神殿はじめ彫刻・絵画等美の宝庫であるアクロポリスを焦点に古代ギリシア美術を俯瞰。

〔主要目次〕I. パルテノン神殿：1. アクロポリスの歴史 2. パルテノンとギリシア神殿 3. パルテノンの彫刻 4. アテナ・パルテノス像とギリシア彫刻 II. ギリシア陶器：1. ギリシア陶器 2. ギリシア絵画史

中国の版画

唐代から清代まで

小林宏光著

世界美術双書004

ISBN 4-88713-225-5 C3371 [1995] A 5・192頁・2300円

類書の全くない日本で初の中国版画史概説。厳選された165図版と詳細な年表・参考文献を付す。

〔主要目次〕I 部 唐、宋代の仏教版画とその展開 宗、元代の諸版画の概要 元、明代の通俗文学と版画 明代版画の特質と大衆化の社会的背景 明末各地の文学書の挿絵版画 明代版画にみる版下画家と刻工 明、清代画譜の発展、他2章。

象徴主義

モダニズムへの警鐘

中村隆夫著

世界美術双書005

ISBN 4-88713-267-0 C3371 [1998] A 5・176頁・2300円

光と実在へと羽搏く近代芸術の主流に対し、夜と彼岸を希求するその精神のフォームを精細に論考。

〔主要目次〕I 部 象徴主義：1. プルジョワの時代 2. フランスにおける1886年の象徴的な意味 3. 失楽園としての象徴主義、他6章 II 部 世紀末都市ウィーンとエロティシズム：1. 太陽 斬られた頭 2. 死の囁き、他4章 おわりに 20世紀における象徴主義の意味

中国の仏教美術

後漢代から元代まで

久野美樹著

世界美術双書006

ISBN 4-88713-293-X C3371 [1999] A 5・176頁・2300円

著名な敦煌遺跡はじめ、彫刻を中心に中国仏教美術の全貌を体系的に紹介。この分野唯一の入門書。

〔主要目次〕1. 後漢、三国、西晋時代—中国仏教美術の始まり 2. 五胡十六国時代と劉宋時代—小金銅仏と石窟美術 3. 北魏時代 4. 南齊、梁時代 5. 東魏、西魏時代 6. 北齊、北周時代 7. 隋時代 8. 唐時代 9. 五代、宋、西夏時代 10. 元時代 年表 参考文献 図版一覧

セザンヌとその時代

浅野春男著

世界美術双書007

ISBN 4-88713-341-3

C3371 [2000] A 5・160頁・2300円

最近の斬新な研究成果を踏まえ、周知の造形面での革新の裏に潜む、謎に満ちた内面に鋭く迫る。

〔主要目次〕 1 近代絵画の父 2 エクス=アン=プロヴァンスの青春 3 揺れ動く魂 4 印象主義との出会い 5 新しい造形の創造 6 苦悩と成功 7 りんごの形而上学 8 キュビズムから見たセザンヌ 9 秘密のかたち 10 幻視のなかの水浴

日本の南画

武田光一著

世界美術双書008

ISBN 4-88713-347-2

C3371 [2000] A 5・160頁・2300円

大雅、燕村、文晁等、江戸期を中心に独自の画風を拓いた日本の南画の特質と系譜を簡潔的確に論考。

〔主要目次〕 I. 南画とは何か II. 初期の南画(祇園南海/服部南郭/柳沢淇園/彭城百川) III. 南画の大成(池大雅/与謝蕪村) IV. 関西南画の展開(浦上玉堂/岡田米山人/青木木米/田能村竹田ほか) V. 関東南画の展開(谷文晁/渡辺畢山ほか) 年表 参考文献 図版一覧

画家とふるさと

小林忠著

世界美術双書009(別巻)

ISBN 4-88713-447-9

C3371 [2002] A 5・144頁・2300円

日本画家12名の郷里を訪ねた著者が、画家の感性や思想とふるさととの関わりを味わい深く描き出す。

〔主要目次〕 1 酒井三良-会津の冬景色 2 木村探元-薩摩の豪気 3 増山雪斎-伊勢の文人大名 4 森谷南人子-瀬戸内の田園詩人 5 菅井梅閑-仙台の激情 6 伊藤若冲-京洛の奇人 7 奥原晴湖-古河の女傑 8 中村芳中-浪花の自由人 9 中西耕石-筑前の孤影 10 丹羽嘉言-尾張の孤高 11 小川芋銭-水郷の童心 12 鍋本清方-江戸の郷愁

ドイツの国民記念碑 1813年

1913年-解放戦争からドイツ帝国の終焉まで

大原まゆみ著

世界美術双書010

ISBN 4-88713-499-1

C3371 [2003] A 5・144頁・2300円

記念碑熱とは何だったのか? 百年に渡りドイツを席卷した一大ブームを、代表作を掲げ鋭利に分析。

〔主要目次〕 序/国民と記念碑の世紀 I部 3月革命以前(クロイツベルク記念碑 デューラー記念碑 ヴァルハラと解放記念堂) II部 転換期(ケルン大聖堂完成 ヘルマン記念碑) III部 統一後(ニーダーヴァルト記念碑 キフホイザー記念碑) 結び 国民記念碑の終焉

日本・アジア美術探索

永井信一著

世界美術双書011(別巻)

ISBN 4-88713-694-3

C3371 [2006] A 5・160頁・2300円

仏像彫刻を中心に日本・アジア諸国の造形美術を歴訪。西欧と異なるその美と面白さを親しく語る。

〔主要目次〕 1 東北地方 2 奈良・京都 3 韓国 4 中国 5 インドネシア 6 インド 7 琉球

インド、チョーラ朝の美術

袋井 由布子著

世界美術双書012

ISBN 4-88713-763-9

C3031 [2007] 四六・160頁・2300円

現在のタミール地方にかつて栄えたチョーラ朝—その遺構に残る優れて特色ある美術を精細に紹介。

〔主要目次〕 1. チョーラ朝黎明期の美術 2. 一大王国の樹立と巨大寺院の登場 3. チョーラ世界の完成に向かって あとがき

古代ギリシアのブロンズ彫刻

総合的推論のために

羽田康一著

世界美術双書013

ISBN 978-4-88713-765-3

C3031 [2008] A 5・168頁・2300円

ブロンズ彫刻理解に不可欠な技術・素材と意味を総合した、ギリシア美術論に一石を投じる新研究。

〔主要目次〕 I 古代ギリシア文化圏の大型ブロンズ彫刻 II 古代ブロンズの制作技術 III 一括出土別考察—ケース・スタディ IV 一括出土別主要作品一覧、主要作品出土地地図

芸術／批評

作品の「質」に対する真の視力を欠いたまま横行している空疎な輸入理論、メタ理論を排し、「批評」の本質的復権をめざし、充実した評論を満載し、4冊を刊行。

芸術／批評0号

特集 芸術理論の諸相

藤枝晃雄責任編集

ISBN 4-88713-503-3 C0070 {2003}

A 5・160 頁・1900 円

芸術／批評2号

特集 芸術理論の諸相3

藤枝晃雄責任編集

ISBN 4-88713-628-5 C0070 {2005}

A 5・160 頁・2000 円

芸術／批評1号

特集 芸術理論の諸相2

藤枝晃雄責任編集

ISBN 4-88713-572-6 C0070 {2004}

A 5・160 頁・2000 円

芸術／批評3号

特集 モダニズムとその周辺

藤枝晃雄責任編集

ISBN 4-88713-732-5 C0070 {2007}

A 5・112 頁・1600 円

文学

『ユリシイズ』の詩学

金井嘉彦著

ISBN 978-4-7989-0038-4 C3098 [2011] A 5・288頁・3200円

作品に底流する意味の方向性を綿密に辿り、本書が目指す地点を浮彫りにした、意欲あふれる労作。

【主要目次】1.『ユリシイズ』の詩学 2.『ユリシイズ』におけるスタイルの変化と歴史的パターン 3.マッキントッシュの男と謎の詩学 4.「ロータス・イーターズ」においてヘンリー・フラワーが開かせるもの 5.両義的な街 6.『ユリシイズ』におけるカーニヴァルの救済 7.「ブリーヴン」と「ストゥーム」に向けての物語 (1) ほか

福永武彦論

「純粹記憶」の生成とボードレール

西岡亜紀著

ISBN 978-4-88713-858-3 C3093 [2008] A 5・304頁・3200円

生涯を通じ自らの核心的な記憶の定着を試み続けた福永の営みを、精細に跡づけたユニークな作家論。

【主要目次】序章 問題の所在 1.追憶の主題 2.モチーフの誕生 3.小説「冥府」における「幼年」 4.想像力あるいは記憶の創造 5.失われた記憶の小説『幼年』 6.深く生きられた「現在」 結語 主要参考文献 福永武彦・生涯と作品

いくさの響きを聞きながら

横須賀そしてベルリン

潮木守一著

ISBN 978-4-88713-805-6 C0093 [2008] 四六・232頁・2400円

“戦争の世紀”20世紀を象徴する二都での体験に彩られた、臨場感あふれるユニークな現代史断章。

【主要目次】第1部 いくさの街に育ちて(富士山、愚直な勤勉さ、海軍志願、海兵団入団 ほか) 第2部 外外国で聞くいくさの響き(分断都市ベルリン、壁による分断、奇跡の復興、東欧の優等生 ほか)

流れ星を待ちながら

滝村光著

ISBN 4-88713-626-9 C0093 [2005] 四六・320頁・1800円

9.11事件等激動の世界を突き進む日本のエリート達。現代小説が描けなかった爽やかなヒーロー像。

【主要目次】流れ星を待ちながら 明かりを消して-ある学者の肖像

三島由紀夫の沈黙

その死と江藤淳・石原慎太郎

伊藤勝彦著

ISBN 4-88713-448-7 C3095 [2002] 四六・304頁・2500円

衝撃の死は何を語るか？その沈黙に込められた現代日本への痛切な祈念を読み解く、鎮魂の書。

【主要目次】1 三島由紀夫と江藤淳 2 石原慎太郎と三島由紀夫 3 江藤淳における「自然と故郷のイメージ」 4 『豊饒の海』 5 反民主主義の論理 6 三島由紀夫の死の哲学

ダンテ研究Ⅰ

Vita Nuova、構造と引用

浦一章著

ISBN 4-88713-182-8 C3098 [1994] 菊判・448頁・7573円

従来の人生論的受容を排し、広範な文献調査と言語構造の徹底解析によるダンテ文学の新たな読解。

【主要目次】0.Vita Nove? 1.「記憶の書 libro de la memoria」 2.「喰らわれる心臓 cuore mangiato」 3.予兆をもたらす夢 sogno premonitore 4.Vita Novaの解釈をめぐる 5.補注 6.Bibliografia

ヒュペリオンの丘

中山直子著

明治学院詩集

ISBN 4-88713-719-6 C0092 [2006] A 5・ 80 頁・1500 円

明治学院大で長年講師として勤めた著者がキャンパスを訪ね歩き、学院の生活を風物詩風に描いた詩集。

〔主要目次〕 序文 明治学院校歌 序詩ヒュペリオンの丘に
一本の木 ヘボン像 チャペルの塔は 森の小道 朝の
時間 ムルという猫 詩のいる場所 藤の花は隠れ咲き
ヒュペリオンの丘 風の白金台 チャペルに響くバツハ
点灯式 チャペルの壁穴 記念館 白い足あと 雨 オル
ガンの音 卒業式 ほか

歴史

社会表象としての服飾

近代フランスにおける異性装の研究

新實五穂著

ISBN 978-4-7989-0018-6 C3022 [2010] A 5・248頁・3600円

画一化を突き破る人間の生き方の多様性—近代フランスに見る異性装が孕む社会的・文化的意味。

〔主要目次〕第I部 ジョルジュ・サンドの異性装 1.“男装の麗人” ジョルジュ・サンド 2. 自伝や書簡にみる異性装 3. 作品にみる女主人公の異性装 第II部 女性サン＝シモン主義者の異性装 1. サン＝シモン主義と女性解放の思想 2. サン＝シモン主義の制服制度 結論

雲の先の修羅

『坂の上の雲』批判

半沢英一著

ISBN 978-4-88713-943-5 C0021 [2009] 四六・200頁・2000円

事実を無視しても日本の過去を明るい物語として提示する—「大歴史小説」に潜むこの危うさを鋭く剔出。

〔主要目次〕1. 『坂の上の雲』の呪縛力 2. 『坂の上の雲』への疑問 3. 日清戦争の帝国主義は定義の問題ではなかった 4. 日露戦争は日本の祖国防衛戦争ではなかった 5. 空想歴史小説『坂の上の雲』 6. 他の戦争歴史文学との比較 7. アイデンティティの牢獄『坂の上の雲』 他2章 付録：戦争の数学

修道女が見聞した17世紀のカナダ

ヌーヴェル・フランスからの手紙

門脇輝夫訳 竹中豊・小林順子解説

ISBN 4-88713-699-4 C3037 [2006] A 5・528頁・9800円

故国へ向け書き続けた手紙から浮かび上がる、知られざるカナダの姿。貴重な歴史断面の発掘。

〔主要目次〕第1部 海を渡ってカナダで宣教する動機 第2部 カナダへの出発 第3部 先住民の間で先住民と共に 第4部 イロクォイ人の襲撃の中で 第5部 ラヴァル司教の権限下で 第6部 国王ルイー四世の治下で 付録

横浜市立大学叢書（シーガル・ブックス）

「開かれた大学」をめざし、大学で蓄積された学問の成果を、わかりやすく楽しい形で市民の方々にも親しんでいただこう——そうした目的で誕生した新しい大学叢書。「平易に書かれた専門書、あるいは知的刺激に富む入門書」として刊行した既刊9冊の上に、さらに発展をめざす。

ことばから見た文化の歴史

アングロ・サクソンの到来からノルマンの征服まで

宮崎忠克著 横浜市立大学叢書（シーガル・ブックス）001

ISBN 4-88713-387-1 C1322 [2001] 四六・176頁・1500円

「ことば」に残る失われた歴史の根柢を尋ね、古代英国の社会と生活を浮彫りにした、興味溢れる教養書。

〔主要目次〕 1. キリスト教の伝来と浸透 2. 命名法と地名の由来 3. ことばの諸相 4. 法律の用語 5. アングロ・サクソンの月名、及び曜日と地名 6. 世俗の詩

独仏対立の歴史的起源

スダンへの道

松井道昭著 横浜市立大学叢書（シーガル・ブックス）002

ISBN 4-88713-386-3 C1322 [2001] 四六・208頁・1500円

今日のEU統合の裏に横たわる独仏抗争の千年を、様々な手法を交え活写。新鮮な視角の欧州史入門。

〔主要目次〕 序章 ヨーロッパ史におけるダイナミズム
1. 独仏対立の起源 2. 独仏の命運 3. ドイツの覚醒
4. 一八一五年のトラウマ 5. スダンへの道 6. 独仏戦争
参考文献 図版・写真一覧

ハイテク覇権の攻防

日米技術紛争

黒川修司著 横浜市立大学叢書（シーガル・ブックス）003

ISBN 4-88713-393-6 C1333 [2001] 四六・176頁・1500円

わが国の最大のライバルにして友であるアメリカの戦略産業事情を縦横に解剖した入門書。

〔主要目次〕 1. 経済紛争と日米関係（議会にだけ権限がある通商問題 ほか） 2. 米国の国家安全保障と経済（米国のハイテク赤字 ほか） 3. 米国の技術覇権戦略の実体（MLH（マルチプル・リーガル・ハラスメント） ほか） 4. 米国法の戦略的活用（英米法の世界 ほか） 終わりに 求められる日本の戦略

ポーツマスから消された男

朝河貫一の日露戦争論

矢吹晋著・編訳 横浜市立大学叢書（シーガル・ブックス）004

ISBN 4-88713-422-3 C1321 [2002] 四六・176頁・1500円

日韓共生の理念下、日露講和を蔭で推進した先覚者の痛切な思いが、適切な解説を得ていま甦る。

〔主要目次〕 序 ポーツマス日露講和交渉と朝河貫一 日露戦争論（日露衝突序説-衝突のいくつかの争点 東洋の戦争を導いたいくつかの事件 ポーツマス条約論（一九〇五年秋）

グローバル・ガバナンスの世紀

国際政治経済学からの接近

毛利勝彦著 横浜市立大学叢書（シーガル・ブックス）005

ISBN 4-88713-435-5 C1331 [2002] 四六・192頁・1500円

二極対立や一国支配を超えた世界社会の再構築は可能か? 「慎重な楽観主義」に基づく新国際関係学。

〔主要目次〕 1. グローバル・ガバナンスの世紀? 2. 国際関係学ディベート 3. 平和と安全保障のガバナンス 4. 人権と民主化のガバナンス 5. 通貨と金融のガバナンス 6. 貿易と投資のガバナンス、7. 地球環境のガバナンス

青の系譜

古事記から宮沢賢治まで

今西浩子著 横浜市立大学叢書（シーガル・ブックス）006

ISBN 4-88713-475-4 C1391 [2002] 四六・144頁・1500円

古代から現代まで、日本文学に現れた「青」という色を精細に分析・考察した「色ものがたり」。

〔主要目次〕 序章 色と色の概念 1. 青の系譜 2. アヲとミドリの言語史 3. アオ・ミドリの漢字 4. 近代文学作品の中のアオ・ミドリ 終章 青は藍より出て…

アングロ・サクソン文学史：韻文編

古アングロ・サクソン詩の全容を、興味深い考察、挿話を交え簡潔に浮彫りした、親しみやすい文学史。

（主要目次） アングロ・サクソン人と英語 古代ゲルマン文学の伝統 英雄詩・叙事詩 エレジー キリスト教詩 その他の詩作品

唐沢一友著 横浜市立大学叢書（シーガル・ブックス）007

ISBN 4-88713-533-5 C1398 [2004] 四六・272頁・1500円

もの・言葉・思考

形而上学と論理

もの、存在、同一性とは？記号論理学における新たな営為を通じ、哲学の基底的問題群に鋭く迫る。

（主要目次） 1 ものとは何か？（狭義の「もの」と広義の「もの」「実体論」vs「東理論」：元来のヴァージョン 「実体論」vs「東理論」：今日的ヴァージョン ほか） 2 存在とは何か？（非存在のパラドクス 名前から存在へほか） 3 同一性とは何か？（同一性のパラドクス ほか） 4 私が思考するとき、何が生じているのか？（私は考える 「私は…」）

三上真司著 横浜市立大学叢書（シーガル・ブックス）008

ISBN 978-4-88713-724-0 C1310 [2007] 四六・208頁・1500円

アングロ・サクソン文学史：散文編

古英語時代の文献を幅広く概観し、当時の文化を彷彿とさせる、韻文編に続く、類書の少ない入門書。

（主要目次） 1. アングロ・ラテン文学 2. 法律、条約、およびその他の法的文書 3. アルフレッド大王と古英語散文の伝統の確立 4. 修道院の復興とアングロ・サクソン時代後期の文学 5. 自然科学関連の作品 6. その他の古英語散文作品

唐沢一友著 横浜市立大学叢書（シーガル・ブックス）009

ISBN 978-4-88713-852-0 C1398 [2008] 四六・240頁・1500円
